



やっぱり  
山田映画がいちばん！  
発行 とよなか山田会  
発行日 2018年6月 2号

とよなか山田会ニュースレター 2号

# 山田洋次生誕地から

今も高橋さんという方が  
大切に住んでいたという方が  
残っているのはとても嬉しく、  
「帰ってきた」との思いがします。  
(2018年 先行上映会でのお言葉)



2018年5月9日豊中市文化芸術センター先行上映会  
舞台挨拶ご登壇！

とよなかにはほくが生まれたまち、  
90年ほど前に父親が設計し、  
当時としてはきつとモダンな建物だったの  
でしょう。  
その建物は…



ほんま、主婦はつらいよ

## ●音楽劇「マリウス」のご案内

「マリウス」は、山田監督が手がけた映画「男はつらいよ」シリーズの原案になったフランスの人気喜劇「マルセイユ三部作」が原作。その中から、これまで何度も舞台化、映画化されている「マリウス」と「ファニー」を音楽劇にして編成されます。

船乗りを志すマリウス役を桐山照史（ジャニーズWEST）、恋人のファニー役は女優の瀧本美織さんが演じます。そのほか、マリウスの父親役に柄本明さん、ファニーの結婚相手役に林家正蔵さんらが出演します。

劇中には歌やダンスが盛り込まれるということで、桐山君の本領発揮が期待されます。楽しい舞台となりそうな音楽劇「マリウス」、2018年6月8日初日～26日千秋楽まで大阪松竹座で上演します。

関西の皆様、この機会にどうぞ足をお運びください。

◆ご観劇料 一等席 12500円 / 二等席 6500円 ◆時間 11:30/16:30  
◆大阪松竹座 Tel.06-6214-2211 (時間は前もっておたしかめください。休館日、午後の観劇のない日もあります。)



## ●とよなか山田会プレゼンツ 「小さいうち」上映会のご案内

監督が原作小説に惚れこみ、ついに映画化したのがこの「小さいうち」です。太平洋戦争の足音が日増しに大きくなっていく東京で、平井家のお手伝いさんとして住み込むことになったタキの視点で物語は進みます。この家には、主人である平井雅樹と妻の時子、息子の恭一が住んでおり、そこに雅樹の玩具会社の若手デザイナー板倉正治が現れて、やがてタキは大きな秘密を知ってしまうのです。松たか子は、秘密を心にしまう妻・時子を演じているが、彼女の口元と目が訴えてくる演技は、昭和を生きる女性の強さと、戸惑いと同時に、密やかな恋を受け入れる凛とした美しい女性を見事に表現しています。タキを演じる黒木華は、この作品でベルリン国際映画祭銀熊賞（最優秀女優賞）を受賞。松たか子と黒木華が山田監督の演出のなかで生き生きと演じる様子だけでも、この作品が傑作だとわかるでしょう。

◆とき 2018年9月14日（金） 11:00/14:30/19:00 ◆ところ 豊中市立文化芸術センター小ホール  
◆料金 一般 1000円（club cat 900円）ペア 1800円（club cat 1600円） \*各回上映10分前にプレトークがあります。



## ●山田洋次ライブラリー講読会のご案内

ところ・連絡先 岡町図書館（Tel.06-6843-4558）とき 2018年毎月第3金曜日 午後2時から3時 講師 能登宏之さん  
プログラム

- |                             |          |
|-----------------------------|----------|
| 1. 名誉市民までの道のり               | 5月18日（金） |
| 2. 山田洋次著「映画をつくる」から①映画と私     | 6月15日（金） |
| 3. 山田洋次著「映画をつくる」から②素材と脚本    | 7月20日（金） |
| 4. 山田洋次著「映画をつくる」から③映画作りの現場  | 8月17日（金） |
| 5. 梯久美子著「昭和二十年夏、子どもたちが見た日本」 | 9月21日（金） |



## 「とよなか山田会」へ入会しませんか！

世界に誇る監督・脚本家山田洋次さんが生まれた豊中を誇りとし、もっとその作品と監督、それを支えてきた日本映画の素晴らしさをひろめるため平成26（2014）年発足。どなたでも賛同する方に入っております。

問合せ先 とよなか山田会（代表 武市 進）  
住所 〒561-0894 豊中市勝部1-1-7 携帯番号 080-3868-2010 FAX 050-7100-3065  
メールアドレス info@toyonakayamadakai.com ホームページ http://toyonakayamadakai.com  
会費は今のところ無料（カンパ、ボランティア歓迎）

fax（入会していただける方は、下にご記入の上、050-7100-3065まで）  
お名前 住所 連絡先及びメールアドレス

## ますます活躍 ドラマ・舞台など NEWS

- 2月 キタデミー賞 北海道命名150年記念受賞 / 国立映画アーカイブ アドバイザー就任 / 「遙かなる山の呼び声」ドラマ化発表（阿部寛&常盤貴子）5月～6月全編北海道ロケ 今年秋放送予定
- 4月 シネマ・コンサート開催 映画「砂の器」 / 母と暮らせば他 舞台化 戦後の[命]三部作 10月から全国で！
- 5月 山田洋次脚本 石井ふく子プロデュース TBS系特別企画「あにいもうと」発表会見 6月25日午後8時放送 NHK 山田監督と蒼井優 対談
- 6月 TBS「サワコの朝」登場

いろいろな世代の方が肩を寄せ合い、山田映画を楽しみ、白髪の車いすの観客の方も多く、まわりがいたわりながら席をゆずり合い、そして会場を後にされた光景が印象に残りました。

「こんなに多くの方に観ていただける、会場のホールも素敵です。いつか『家族はつらいよ』のキャストである妻木木君が、このホールのピアノの調律するシーンが撮れたらなあ、と思ったりします」、とお言葉にまた大拍手。



当日は千席の大ホールを埋め尽くす観客。笑い、涙あり、終わった瞬間に大拍手、監督がいつも願っておられる「ワイワイ、楽しく映画は観てほしい」そんな劇場風景をプレゼントできたかもしれません。



世界の映画界の巨匠であり、ご存知「豊中市名誉市民（2016年5月）」でもある、山田監督。昨年に続いての豊中入り、何とも嬉しく、上映された新作と共に感動、感動の一日になりました。

「妻よ薔薇のように」（家族はつらいよIII）の一般公開（2018・5・25）に先がけて、5月9日豊中市文化芸術センターで先行上映会が開かれ、山田監督の舞台あいさつをいただきました。翌日は「なんばパークス」先行上映会舞台挨拶、翌日は名古屋「ミッドランドスクエア」で「男はつらいよ 寅次郎相合傘」上映会舞台挨拶と、超ハードスケジュールの中でのご登壇です。



5月25日公開 「妻よ薔薇のように」(家族はつらいよIII)に向けて  
「妻薔薇の観方」



妻薔薇・家族はつらいよIIIのあらすじ

史枝(夏川)は、育ち盛りの息子2人と夫・幸之助(西村)、そしてその両親と暮らす主婦。ある昼下がり、家事の合間にまどろんでいた際に泥棒に入られ、冷蔵庫に隠しておいたへそくりを盗まれてしまう。幸之助から「俺の稼いだ金でへそくりをしていたのか」と嫌味を言われ、たまっていた不満が爆発した史枝は家を飛び出して行く。家事を司る主婦が不在となった平田家は、大混乱かつ崩壊寸前。具合の悪い富子(吉行)に代わり、周造(橋爪)が掃除、洗濯、食事に挑戦するが悪戦苦闘を続け、家族そろって史枝の偉大さを痛感する。しかし史枝が帰って来る気配は一向になく、またもや家族会議が緊急招集される。

「観方」満載の妻薔薇 ― あなたはどう観る？

この映画は、「家族はつらいよ」シリーズであることは確かながら、今までにない全く新しいテーマ、観る者への問いかけが深くきざまれているようです。

3世代同居という「大家族」、何かコトが起きると4世帯8人が集まる「家族会議」、という何でもない光景が、今は失われた「美風」。4世帯のキャラクターとそのキャスト、それぞれの役割分担、それら「シリーズ」らしい継続性に安心感というかりラックスした空気が漂います。

「家族はつらいよ」II「家族はいいよ」でもあるシリーズ！

一方、途中から緊張感と思考を迫るシーンが続きます。Iの「熟年離婚」IIの「孤老」と現代課題の「アソビ」を、笑いで包むという「シリーズ」の特徴は変わらないものの…これはただの「家族はつらいよ」ではないぞ、「家事とは?」「家計とは?」「夫婦とは?」「男・女の役割、あるいはその克服は?」「人間関係を支え、育む」コミュニケーションとは?…そして「家族とは?」山田監督はいくつかの大切なメッセージを送りながらも、観客の「考える」ことを求めているのでしょうか。

同時に映画の楽しさ、味わい方もふんだん！登場人物一人ひとりの役柄、役づくり、演技の絶妙さ、鶴瓶のタクシー運転手、うなぎ屋さんの瞬間登場、そしてちりばめられた「クスツ」とする場面…と表現者・山田映画の完成度の高さが伝わります。

という具合に「妻薔薇」はきっと人により、いろんな「観方」があり、見落としてはならない要素もあると言えるでしょう。さて、あなたはどの観る？

## 山田監督が語る「妻薔薇」の立場から考えてきた

2018年5月31日(木)朝日新聞より抜粋

なぜいま主婦を？

いま、ではなく、寅さんを作っているときから、いつも考えていたことです。

妹の「さくら」は、実家の団子屋さんの共同経営者だけど主婦です。作品の中心的存在ですが、彼女はとても賢い人で、一緒に暮らしている家族や地域の人、自分の友達的心がよく読み取れ、生活を大事にくらしている。教養とは人間関係に関する深い洞察じゃないかって。さくらさんは、この教養がある人で、そういう人がいてくれると家族、地域、職場はうまくいく。

だから寅さんはさくらさんに会いに戻るし、家族に色々な人が出入りします。地域と家族が垣根なく緩やかにつながっていくっていいかな。そんな光景はこの国から消えてしまいましたけどね。

「男はつらいよ」II「家族はつらいよ」

ただ、「主婦」や「嫁」という言葉には、とても引くかかる。女性を附属物のように考える響きがあります。「家族はつらいよ」では三世帯同居を描いていますが、それがいいか、そうじゃなきゃいけないなんてこと、僕は考えていません。それは「親の介護は息子の嫁がする」ということにつながってしまいます。

「働く女性」といういい方も変です。主婦は「働かない女性」なのかと、さくらのような複雑で難しい労働を、「女の仕事」とひとくくりにし、評価してこなかったことに、この国の大きな問題があるんじゃないでしょうか。



## 山田映画の持つ不思議な力

劉燕子

とよなか山田会のお誘いで「家族はつらいよ」IIIの先行上映を観られることになった。阪急電車で会場に向かう。パンフレットを見ながら、友人とおしゃべりしていると、向かいの座席にいた上品で知的な雰囲気のある女性が首をかしげていた。

電車を降り、会場に行く途中、婦人から「もしかして上映会に行くのですか」と、優しいぬくもりのある声をかけられた。「はい、そうです」「そうですか。よかったです」「先ほど山田洋次監督の作品についてお話ししましたね」。

友人が「彼女は中国の方で、寅さんのファンですよ」と。そうですか。私は「学校」IIIの原作者の鶴島緋沙子と申します」私は「学校」IIIを観ました。すばらしい作品で感動しました」と。こうして会場に着き、上映会が始まった。

終了後、茶屋で偶然、また鶴島さんとお会いでき、いっしょに山田監督とお話した。監督は彼女と親しく30分以上も語りあった。私は監督に「是非、在日外国人の家族を描いてください。いろいろな涙と悩みとけんかとお喜びに包まれる毎日です」と。

翌日、鶴島さんから短編小説集『トミーの夕陽』が届いた。自閉症の息子トミー(登美郎)とカーサン(母)を中心とした連作が主となっている。「濃い涙のインクで書かれている分、読者に限らない癒しを与えてくれる」(瀬戸内寂聴)。

山田監督の作品には何か不思議な縁で人と人の絆を編みあげる力があるように感じる。今朝も寅さんの歌♪奮闘努力の甲斐もなく 今日涙の 今日涙の陽が落ちる♪をイヤホンで聴きながら授業へと足を運ぶ。

### 対談

山田洋次 × 蒼井優

「おとつと」「東京家族」「家族はつらいよ」III等、今や山田映画には欠かせない蒼井優さん。お二人の対談一時間じっくりと楽しみ、味わい、映画、演技の深みを垣間見ることができました。撮影現場での監督の表現者としてのきびしさ、それに応じようと懸命の努力、向上を重ねる蒼井さん：日本の映画レベルの高さを改めて支える姿が伝わります。「ワーワー！」と鳴く犬に「ワンと鳴け」と指示された、との蒼井さんの「裏話」には笑えました。この番組を見た友人から「山田洋次さんて素敵、かっこいい」との声がかりました！



NHK Eテレ 2018年5月12日放映!

ずっと念頭にあった？女性の無償労働

僕は終戦直後に学生時代を過ごし、民主主義について盛んに議論した。寮で「なぜ主婦の仕事はこんなに圧迫されているんだろうか」という話も真剣にしました。男は外で仕事して評価されているのに、主婦の労働は評価されないのはおかしいんじゃないかと。団塊以降の人がむしろ保守的になっているんじゃないかと思えますよ。

家族や夫婦にとって大切なことは…

「あ、自分は間違っていた」と思ったら、素直に自分を変えることです。もちろん、関係を修復できず、別れることもあるでしょう。人間は、そういう厄介な存在です。映画でも、別れるという結末の物語も作んなきゃいけない。男女が憎しみ合う姿や、つらい話を描くことになるけど、どうやって立ち直っていくのかという、そこからね。

家族っていい面がある一方、苦しみ源でもありますよね。

「家族はつらいよ」というのはそういう意味です。僕の一家は(旧)満州から引き揚げて貧乏していましたからね。両親も離婚して、つらいことが色々ありました。古い田舎町の人間関係も煩わしくて、そんな田舎と家族から解放されたいと思って東京に出て来た。その僕が、故郷や家族の映画を作っている。不思議ですね。



「さくら」さんこそ「妻薔薇」の原点？

